

平和記念公園周辺地区活性化プロジェクトについて

1 趣旨

平和記念公園は、毎年多くの観光客が訪れる一方で、その来訪者の多くが観光後に都心側（紙屋町～八丁堀周辺）を訪れることなく他の観光地へと移動している傾向が見受けられることから、これらの観光客を都心に誘導し、都市圏の活性化に繋げる取組みが必要となっている。

このようなことから、回遊性の向上やにぎわい拠点の創出等、活性化方策の検討にあたり、その基礎データとなる平和記念公園を訪れる観光客等の移動状況等の調査を行うとともに、平和記念公園周辺の土地利用状況等の調査を実施した。

2 調査結果の概要

(1) 観光客等移動状況調査

① 歩行者状況調査結果

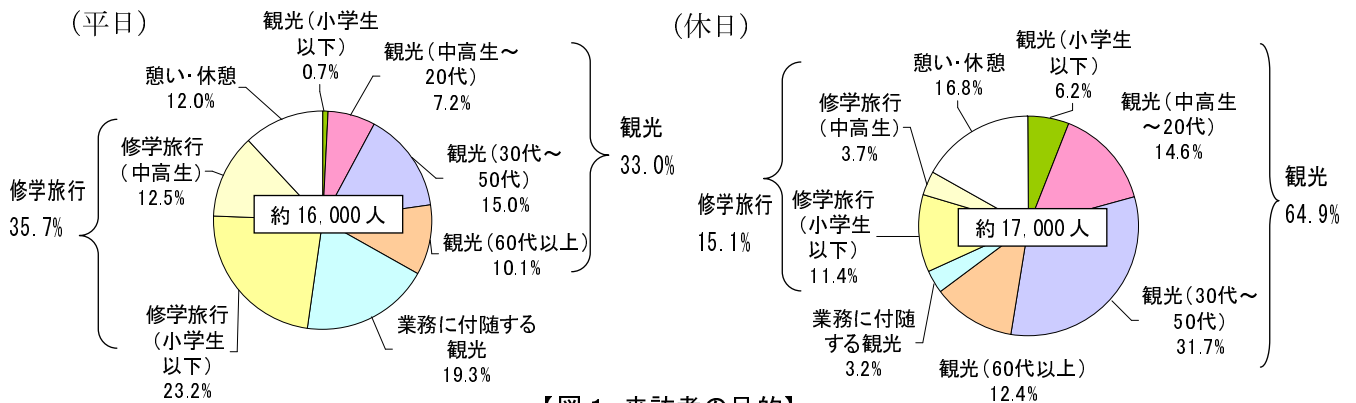
ア 公園来訪者数

調査日	来訪者数	当日の資料館入館者数
平日調査 平成 24 年 10 月 24 日 (水)	約 16,000 人	6,736 人
休日調査 平成 24 年 10 月 21 日 (日)	約 17,000 人	5,931 人

イ 来訪者の目的

来訪者の目的としては、平日では修学旅行の割合が多く、休日は観光の割合が多い。

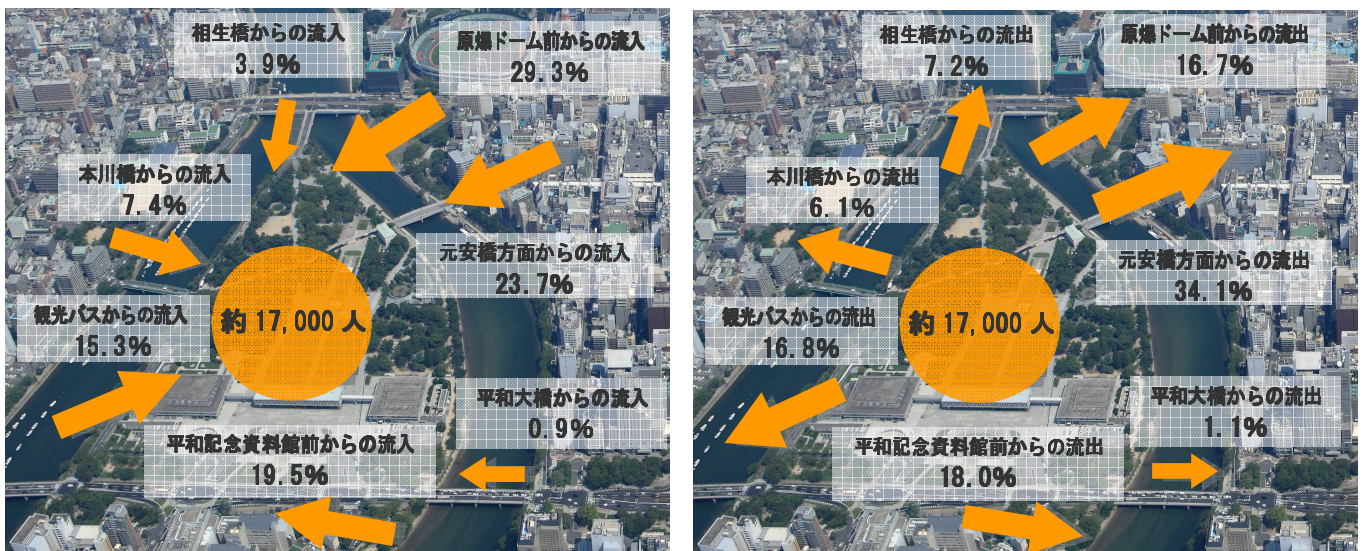
【図1 来訪者の目的】



【図1 来訪者の目的】

ウ 歩行者の流出入状況

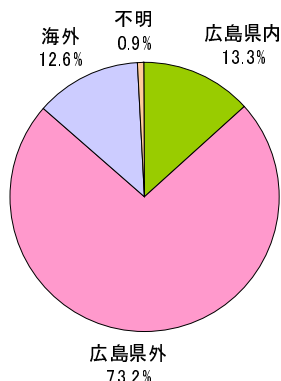
公園における歩行者の流出入（休日）状況については、次のとおり。【図2 歩行者の流出入状況】



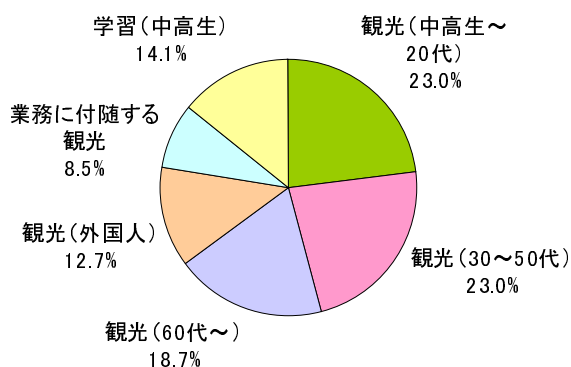
【図2 歩行者の流出入状況】

②平和記念公園来訪者等へのヒアリング調査結果

ア 回答者の居住地及び来訪目的 (回答者数：540人)



【図3 回答者の居住地】



【図4 回答者の来訪目的】

イ 滞在時間

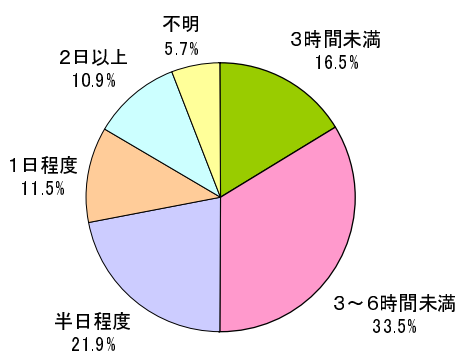
- ・都心部での滞在時間は「3~6時間未満」が最も多く、6時間未満が半数を占めている。

【図5 都心部での滞在時間】

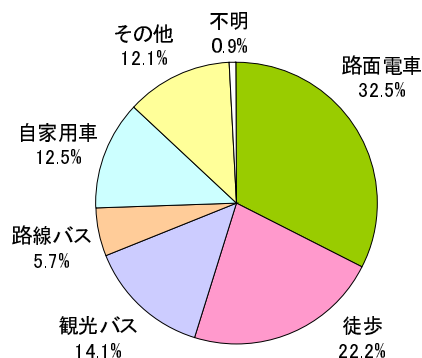
ウ 移動手段

- ・当公園までの移動手段は、路面電車が最も多く、次いで徒歩、観光バスとなっている。

【図6 公園までの移動手段】



【図5 都心部での滞在時間】



【図6 公園までの移動手段】

エ 来訪者ヒアリング調査における主な意見

- ・どこが広島で一番賑やかな場所なのかわかりにくい。
- ・わかりやすい交通手段の案内や観光地等への案内がほしい。
- ・休憩施設、憩いの場がほしい。

オ 観光バス調査における主な意見 (ドライバーヒアリング)

- ・市内中心部に観光バス駐車場が不足している。

(2) 土地利用状況等調査

平和記念公園と都心エリア(紙屋町・八丁堀地区)との中間に位置する地区等を対象に、建物や土地利用状況について調査・分析を行った。

調査対象エリア内には、比較的容積率を充足した建物が建築される等、高度な土地利用状況の箇所もあるが、コインパーク等、容積率を活用できていない区画や建築後かなりの年数が経過した建物も見受けられた。

3 今後の取組みについて

平和記念公園周辺地区の活性化に向け、今後、必要と考えられる次の方向性をもとに関係機関等と連携しながら検討を進める。

- ①低未利用区画の利活用による平和記念公園と都心の賑わいの連続化
- ②来訪者・観光客を都心へと導く魅力ある都市景観の形成
- ③新たな回遊を創出する移動環境の充実
- ④貸切バス等の来訪者の特色を活かした回遊創出策の実施